

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本を入りに好奇心を育てる ～忍者ごっこ～

<テーマの設定理由>

毎月の絵本の読み聞かせを通して、子どもたちの興味や気付きが日常の中にも広がっていく様子が見られた。読み聞かせ後には、絵本にまつわる会話が子どもたちの間で自然と生まれるようになっていた。

『あめのひのえんそうかい』を読んだ後には、雨が降ると外から聞こえてくる音に耳を澄まし、「ポタポタ聞こえるね」と気付きを共有する姿が見られた。また、『ゆきがまちどおしいヤチネズミさん』の読み聞かせ後には、寒い冬の中で生きる動物の暮らしに関心を示し、「寒くないのかな」「どこに住んでいるのかな」といった疑問や発見を言葉にする姿があった。

このように、絵本の世界が子どもたちの実体験や日常の気付きと結び付き、興味・関心がより深まっていることがうかがえる。

その中で、絵本『せっしゃはにんじゃ』の読み聞かせをきっかけに、子どもたちが忍者の世界に興味・関心を持った。そこで、忍者になりきって遊ぶ中で、身体を動かす楽しさや友だちとの関わりを深めるとともに、自分で考えて遊びを広げる経験につながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

7月7日～7月18日

- ・絵本『せっしやはにんじゃ』の読み聞かせ
- ・忍者への興味・イメージを共有
- ・はちまきや腕バンドを身に付ける
- ・手裏剣づくり
- ・サーキット（修行の場）の設定
- ・忍者ごっこ（修行遊び・かくれんぼ等）

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

【準備した素材・環境】

- ・はちまき、腕バンド
- ・手裏剣（大きめで持ちやすい形）
- ・ソフト積み木、テープ、的
- ・サーキット状のコーナー設定（跳ぶ・くぐる・投げる等）

【活動の様子】

先生：「今日は忍者になって修行をしてみよう！」

子ども：「やったー！忍者だ！」

子ども：「手裏剣つくりたい！」

はちまきや腕バンドを身に付けることで気持ちが高まり、忍者になりきる姿が見られた。自分で作った手裏剣を手に、「真ん中を狙って投げてみよう」と的に向かって繰り返し挑戦する様子があった。

ソフト積み木やテープを使って簡単なサーキットを設定すると、「ここはジャンプの修行だよ」「忍者は静かに行くんだよ」と、遊びの中でイメージを膨らませながら取り組んでいた。

また、子どもたち同士で「隠れみの術だ！」と言いながらかくれんぼを始めるなど、自発的に遊びを広げていく姿も見られた。

【安全面への配慮】

- ・手裏剣は人のいる方向には投げないことを約束する
- ・投げる方向を統一し、安全に配慮した環境設定を行う
- ・手裏剣は大きめに作り、持ちやすく扱いやすい形にする

4. 振り返り

<振り返りによる気づき>

子どもたちは絵本をきっかけに忍者の世界に強い関心を示し、なりきって遊ぶことを存分に楽しんでいた。身に付ける物や手裏剣などを自分で作ることで、より主体的に活動へ関わる姿が見られた。

サーキットを通して身体を動かす楽しさを味わうだけでなく、「こうしたら忍者みたいだよ」と友だちとイメージを共有しながら遊びを発展させる姿が印象的であった。

また、「隠れみの術」など自分たちで遊びを広げていく姿から、子ども自身の発想力や創造性の豊かさを感じることができた。

一方で、手裏剣遊びには危険も伴うため、安全面への十分な配慮や約束の共有が重要であることを再認識した。今後も、子どもの興味を大切にしながら、安全に楽しく遊びを深められる環境づくりを行っていきたい。



